
歌から生まれるモノ

Sorairo 光

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

歌から生まれるモノ

【Nコード】

N3956H

【作者名】

Sorairo 光

【あらすじ】

名前の通り、歌から作り出した描写です。適当すぎるくらい適当ですが、興味を持っていただけたら嬉しいです。

雨（前書き）

一つ一つの描写に深い意味はありません。
また、描写一つ一つに関連性はまったくありません。

雨

好きだから。

好きだから。

それだけの言葉。

いつも空につぶやいて、空に宙に……………。

残される言葉。

好きだから……………離れるんだよ。

好きだから……………一緒になんかいられないんだよ。

だから顔を上げてよ。

私は雨が好きだよ。

だから……………あなたが苦しいときに雨が降ってきたらそれを私だと思って涙を止めて。

私は君と出会うために生まれてきたんだろうね。

風を分けて風を切つてあるいていく。

今日もあたりまえのようになるね。

目覚ましの音。

大事なものはあんまり見えなくて困っちゃうね。

だから人間は嘘をつくんだろうね。

泣きたくなつた。

でも、泣きたくなくてしがみついた真実が呪縛になって私は私じゃ

なくなつて。

何言つてるかわからないって？

それは私にも良くわからないの。

坂道でも登ればありきたりでありそんな気がするのに、見つかなくて。

音楽の中にあるのにない風景がめちゃくちゃになつて枯れはてるまで。

聞かせて。

懐かしい歌を遠くで聞こえたぬくもりと一緒に。

雨の日に出会つたから雨がすきなんて単純すぎるけど。

どうして世界はたまにもものすごく無力に流れていくんだろうね？

やっぱり私と君はそばにいれないよ。

たとえお互いが思いあつていたとしても。

だから………雨が降ってきたらそれを私だと思つて涙を止めて。

いつまでも優しくあなたを包むから。

雨が降ってきたら時間をとめればいいよ。

目をつぶればそこにはあなたがいるから。

目をつぶればそこには私がいるから。

思い出はもう過去のものだけ。

思い出はもう時間は流れないよ。

だから。

あなたの傷口がまだ傷むなら私はその空に願うから。

同じ空の下にいるあなたにむかつて願うから。

だから悲しまないで。

寂しいときは時間を止めればいいよ。

止めてるそばで流れる時間に痛さを感じて泣けてくるかもしれないけど。

なききたいときに泣けばいいよ。

誰も止めないから。

誰もいないちゃいけないなんていわないから。

膿は吐き出すべきだよ。

それでも痛むなら願うから。

あなたのこと……ひたすらに願うから。

私ね……今。

あなたの前に立ってるよ。

あなたは気づかず別の方角向いてるけど。

そばにいるべきじゃ……なかつたんだよ。

だから。

あなたの思い出とともに流してしまおう。

私の思い出も。

すべてを……。

闇

あたしを抱きしめてくれる

このぬくもりはどこへ消えてしまうの？

明日にはもうないの？

そんなのいや。

嫌だけど、嫌ってはいえないの。

きっとあたしたちは向かい合ったら鏡のように似てるのに。

触れ合うことが出来ないままこっやってすれ違っていくんだろっね。

あなたを知りたいと思うあたしが馬鹿なの？

それともそのかたくなに心を閉ざす深い理由があるの？

鋭い氷の刃に胸を指されて、無邪気に笑えなくなったあなたに。

あたしはココだよ。

なんと示しても気づいてはくれない。

ずっとそばにいるよ。

そう言ってるのに、あなたは心を閉ざしたまま。

笑っていても分かるよ。

あたしはあなたの何なの？

きいてみたいけど聞けないこの距離が邪魔をする。

化石みたいに眠りにおちて、永遠の闇を旅する。

時は満ちて。

ねえ？

あなたがそこまで苦しむ理由が分からないよ。

相談してって言いたくて。

いえなくて。

こわくなって逃げたの？

そばにいるよ。

君がきづかなくても。

そばにいるよ。

氷の刃を胸にさしたまま、あなたは暗闇の中で今も震えているの？
そこにいるなら返事をしてよ。

あたしもあなたの隣にいるから。

光なんて求めないから。

あなたの心の声を聞かせてよ。

あなたの闇の色にあたしも入れて。

ねえ？

あなたは誰のために強くなりたいの？

あたしは守りたいのに戦う矛盾に壊れてしまいそうになる。

ここにいるから。

“ さよなら ” なんて永遠にあえないような台詞を言わないで。

あたしはここにいるから。

言わないで最後まで。

あたしは逃げないから。

心を開いて。

傷つけることに臆病にならないで。

ずっと、まつから。

臆病にならないで。

限界を境界を超えてあなたとずっと探してた奇跡を叶えてみよう？

現実も、想像さえも超えていこう。

きつとずっと先までいけるよ。

あなたとあたしなら。

闇（後書き）

読んでくださった方に感謝。
いなさそうな気がしてます。

ええ、めちやくちや。

正直、ただの趣味です。

ストーリー性はありません。

扉

たった一つの思いを貫く難しさの中で君だけを探した。

疑問だらけの世界でおぼれながら必死にきみをつかみとって。

“一緒だよ” 果たしたい約束。

しがみついても離したくないもの。

だから守り抜いて見せたい。

答えなんてきつとないけど、それでも前に進んでいくことは困難だ
けど。

今ここにお前がいることは事実で、この奇跡にかけてみようと
思うんだ。

だから生き抜いて行ける。

すべてかけよう。

甘い気持ちでここにいるわけじゃない。

この瞬間を守るためにあるんだ。

一人で進んでいくには辛すぎるこの道。

でも、誰かがやらなきゃ駄目なんだ。

かけがえのないものを守るため。

誰かが扉を開けなきゃならない。

でも、自分の目に前にある扉は、誰か。じゃない。

俺おれじゃないと駄目なんだ。

どんなに遠くたって。

歩いていく。

静かにつづいていく歌。

どこまででも信じていける気がするんだ。

やまない雨はないだろう？

傷ついてもいいから絶望も孤独も超えて刻んでいこう。

そんな時間の中で不意に立ち止まって迷ってるとき、君が浮かんだ。
果て無き夢を止めようとする不自由な世界だけど、君が照らし出し

てくれたともに歩いていくための道を、俺はとまらないで歩いていこうと思う。

疑問だらけで、不自由で、無限の可能性もとめられるかもしれない。でも、きっと答えなんてない。

ここにある奇跡を信じて。

限界も超えて。

君を守りたいから、俺は今日も歩いていくんだ。

毒

口に毒を塗って俺の部屋にきたらどう？

なにかもかめちやくちゃになって、そばにあるものが当たり前に感じて。

手放したくなくなつて、人を縛り付けるお前とこの感情は何なのだろうか。

宙ぶらりんな夢、嘘。

汚れた魂を取り除けないならどっちに歩けばいいのか分からない。

どっちに歩けばお前と同じ道を歩いていけるのかと真剣に考えていた。

今更そんなこといつたつてお前は鼻で笑うかもしれないけど。

俺は本気だつたんだ。

大事な過去も、真剣だつた日々も。

すべてが無になって消えてしまうのだろうか。

この想いは、消してしまいたいけど消したくない。

分からない気持ちが矛盾する。

何もかもがぐちゃぐちゃになって消えてしまえばいい。

でも、消えないでここに、心に残っていてほしい。

幸せとか言うものを消したくはない。

矛盾が矛盾を呼んでいく。

今まで知らなかったことも。

昨日までの口付けも。

おかしくなるくらいだ。

もうどこにも逃げたりしない。

逃げたりしないから伝わってほしい。

気持ちはちゃんと伝わっていくとお前は言った。

ならお前に届けとそればかり。

ふざけるなよ。

ちゃんと届くか？

本当に今更ながらに届くのかかわからねえよ。

でも、まあそれはそれとして、

俺は生きてるよ。

俺は今日も生きている。

答えなんか誰も知らないけど。

お前がいた日々すべてを抱えて、俺は今日も生きてるよ。
ないはずの答えを探しながらね。

旅

強くならなければ。

そうきめて旅立っただ。

夢は力強く踏み出されたばかり。

振り返らずにどこまでいけるだろう。

自分を試すための旅は、どこまで自分に厳しくて、どこまで自分に優しいだろう？

自分はどのような可能性を見つけられるだろう？

強くなることは悪いことじゃない。

でも、やっぱり強いことも、弱いこともあって当然じゃないかと思うんだ。

だからこそ立ち上げれる。

危機があっても、きっと後ろを振り向いても。

未来に向かって生きていけるだろう。

この先に何かがあるのかなんて想像できない。

わからない。

それでもあるきたい。

自分で自分を試してみたい。

中途半端な気持ちで言ってるわけじゃない。

中途半端に自分をためすたってそんなんじゃない自分は見つかりやしないよ。

だからこそ力強く、今、スタートを切れ。

ゴールなんてきつとない。

でも、限らないスタートがそこにある限り。

人間は進むものだよ。

だからこそ、旅に出るんだ。

ここをスタートとして。

仲間がいるかもしれない。

でも、仲間なんかいないかもしれない。

でも、やれるとこまでやってたい。

中途半端だったからこそ旅に出たいんだ。

そんなときってない？

中途半端なお前じゃ無理だ

そんなこと言わないで。

自分の可能性を人に奪われたくないから。

無限の可能性をへし折られてしまうような世界でも。

翼という0・1パーセントの希望があるならいくよ。

もしかしたらここにはもう帰って来れないかもしれない。

明日には自分の命なんかないかもしれない。

家族が事故に巻き込まれたりするかもしれない。

だけど、行くんだ。

さあ、新しいたびの始まりだ。

思い切って旅立とう。

明日に。

未来に……。

旅（後書き）

いやぁ・・・こんなところでも見てくださる方がいらっしやるんですね・・・ユニークアクセスが2になっているのを見て、驚きました・・・。

こんな未熟者ですが、ここまで読んでいただき、ありがとうございます・・・。

物

お気に入りのもものようにずっと一緒にいた。

どんなことするにもそばにいて、

どんなときも一緒に、

それが当たり前だと思って過ごしてきた。

喧嘩して、仲直りして、喜怒哀楽を一緒に過ごした仲間だからこそ。

これから先もずっと一緒にいられると思った。

それが当たり前だと思った。

それが当然だと思っていたんだ。

なのに……。

それなのに君は今、隣にいないのはなんで？

他の何かと一緒にになって、新しいものであって。

なのに、やっぱり君じゃなきゃダメで。

他の何かと比べたり、君を探したりしてるうちは他のものなんてダ

メで。

もっと同じ時間を共有していたい。

どんな秘密だって他の人に言えないようなことだって、共有できた。

時間を戻したり、やり直すなんて器用なことはできないから。

また一から始めようよ。

時間を戻すなんてできないから。

始めようよ。

やり直すんじゃないくて、また新しく始めるんだ。

きつとできるよ。

また新しい、次の別の時間を始めよう。

どんなときも、逆行さえ乗り越えていけるさ。

新たな絆で結ばれて、次へと進めたなら無敵になれるよ。

だから今度こそ壊れないで進んでいこう。

新しい風を受けて進んでいこう。

もしも“次”が与えられなかったとしても。
共有した時間はいつまでも心に残り続ける。
大切なもの。
大切な宝物。
大切なパートナー。
永遠のもの。
永遠の宝物。
永遠の宝物。
永遠にパートナー。

物（後書き）

ええつとですネ。

何故でしょう。こんなところにも読んでくださる方がいらっしやる
んですよ……。

ただの私の捉え方やそのものの感じ方しか書いていないよな自己満
足なんですけど……。

意外です……こんな様などころでも見ていただけるときは
みていただけるんですねえ……。

強く呼んで。

行かなくちゃ……………。

暗闇にあなたが何度迷ったって、誰もあなたを助けちゃくれない。

それどころかあなたが迷ってることに気づいてくれるかさえ分からない。

だから行かなくちゃ。

あたしだったらあなたを思う愛しさだけであなたを救えるよ。

だからあたしの名前を強く呼んで。

誰よりも早くあなたの元に駆けつけるから。

あたしはあなただけを思ってる。

闇に迷い込んだあなたがどんなにもがいて自分の居場所が分からなくたって。

あたしがあなたを思う愛しさだけで駆けつけるから。

あなたもいつか気づいてくれると信じてる。

いつか疲れてスタボロになったあなたのそばにいるのはきっとあたし。

あなたを強く思うあたしに癒されてくれると信じるから。

だからあたしの名前を呼んで。

どこまでも強く呼んで。

行かなくちゃ……………闇に迷い込んだ君を誰も助けてはくれない。

あたしなら君を思うその強さだけであなたのところまでいけるわ。
だからあたしの名前を呼んで。
行かなくちゃ。

闇にどんなに迷っても、あたしは行くから。

だからあたしの名前を呼んで。

何度も呼んで。

強く、強く、どこまでも。

あたしなら誰より早くあなたの元にたどりつくよ。

誰よりも早く走りぬいていくから。

だから呼んで。

何度だって、何度だってあなたの元に駆けつけるから。

誰より早くあなたを見つけ出すから。

そのうちあなたがあたしの愛に気づいて、癒されてくれると信じて
る。

信じてるから呼んで。

あたしの名前を何度も呼んで。

あたしはいつだってあなたのそばにいるよ。

呼んでくれさえすればどこだって誰より早く駆けつけるから。

闇に迷い込んだ君をだれも助けてはくれないかもしれない。

それでも、あたしは行くから。

何度だって何度だって。

だから、あたしの名前を呼んで。

過去

感情を失ったら人ってどうなるのかな。

記憶って失ったらどうなるのかな。

私は君といることで生まれた沢山の世界が好きで、今、あなたが全てを失っても。

あなたといた記憶が私を動かしている。

ね？だからいらぬ記憶なんてないでしょう？

つむいで、抱きしめて……。

あなたと過ごした時間は大切だよ。

大切なんだよ？

ありがとう……今、ここにいてくれて。

あなたはそばにいて、私の近くにいますけど。

たまに見るその後姿に寂しさを見る。

あなたの優しいところも、その奥にある弱さも。

全部知りたいの。

あなたと育てたい。

新しい世界。

続いていく世界を。

どうかあなたが恐れてる何かを隠したりしないで？

私はここにいますから。

あなたと手が触れたとき、何故だろう。

とても懐かしいと思ったの。

あなたはそのままでもいいんだよ。
ずっと私、そばにいるから。

いらぬ記憶なんてないでしょう？

だから答えはきつとどこにもないけど。

怖がつてる何かを私にも教えて。

隠したりしないで。

強がろうとなんてしないでいいから。

抱きしめて、何度失ったって。

きつとそれはつむがれていくんだよ。

そうしてあなたに出合つて、私は未来に向かつて歩いていくんだよ。

ただ、何もいらぬと思えたの。

そう、純粹に思えた。

だつて、私にはあなたと記憶があるから。

ありがとう。

ありがとう……心から……。

強がりもしないで。

ずっとそばで。

抱きしめて。

つむいで。

そうやって繋がっていくんだよ……。

きつとそうやって繋がっていくんだよ……。

過去（後書き）

過去って失ったら人間って．．．．．どうなっちゃうんでしょうか．．．．．人格さえ失っちゃうんでしょうかね．．．．．あゝ怖い怖い．．．．．。

それがもし、自分の大切な人だったら私はその人とともに記憶だけを頼りにして生きていけるんだろうか．．．．．。

その姿にありがとうといえるのだろうか．．．．．。

そんな強くないです。やっぱり無理です！！はあ．．．．．弱いな

あ．．．．．自分．．．．．。

守る

守れると思った。

あの時は。

当然、好きな女の子は傷つけないと思った。

好きな女のこのことはすっぱりと包み込めるくらい大きな人間だと思ってた。

ただ、限りなく。

そんな感情はどこから出ていたんだろう。

どうして気づかなかったんだろう。

君が傷ついているって。

「さよなら。」

そういわれた言葉が俺の胸に突き刺さって。

きづかなかった。

別れたかったんだね。

ごめん。

なんでも分かり合えてると思った。

恥ずかしくしていえなかった言葉も全部。

分かってくれてると思ってた。

でも、そっかぁ……俺ばかり好きだったのかもな。

嬉しかった。

楽しかった。

君といた時間が。

この時間がずっと続くんだと思っていた。

喧嘩する数が多くなったのはそれだけ仲良くなったからだって友達に言われて。

それ、鵜呑みにしすぎたかな。

ついには喧嘩さえ少なくなってる。

そのときには倦怠期に入ってたって事なのかな。

嫌いって言われたから嫌いになるなんてできるかよ。

俺は嬉しかったんだ。

ただ、そばにいれる。

それだけでよかった。

わらっててほしかった。

下心もたまにはあった。

けど、純粹に君が好きだったのに。

未練たらたらそのまま消えた俺の彼女。

『さよなら。』

その言葉だけを残して。

残して……………。

ごめん。

本当は弱かったんだ。

ごめん。

気づけなくて。

ごめん、本当は何にもできない奴で。

好きな子ぐらい、守れると信じていた。

俺が……………馬鹿だったんだよな……………きっと……………

。。

未来

雨が降り出したソラを見上げて

君の声、聞きたくなつた。

病気がちな私は、まさか自分がこんな思いをするなんて思つても見なかつた。

明日がくるなら何もいらぬよ。

だからどうか私を一日でも長く生きさせてください。

ただ、君だけに笑つてほしいから。

いつでも。

その笑顔を私は見ていたから。

でも、それも叶わないと聞くと、どうしても胸が痛む。

どうか私に明日を与えてください。

私にとって、一日、一日すべてが特別なんです。

やりのこしたこと、まだやっていないこと、沢山ある。

どうして私を選んだの？

そんなことは言わない。

明日があるなら。

未来があるならそれ以外は望まないから。

まだあと少しでもいい。

生きていたい。

君だけに笑っていてほしくて。

ただそれだけなのに。

明日が見つからない。

もう一度チャンスがあるなら。

あなたに会えたこと嬉しかったこと。

何度だって何度だって感謝するから。

雨が降り出した。

それは曇ってる。

何度だって夢を見る。

明日の夢。

未来の夢。

明日があるならそれ以上は望まない。

だって、未来があるのは無限の可能性と、無限の願いがあるから。

明日でいい。

あと一日でも長く私を生かして。

どうかあと一日でいいの。

いろんな人に迷惑かけてることは分かってる。

でも、生きたい。

あきらめたくない。

明日がほしい。

未来がほしい。

どうか私に明日を与えてください。

どうか私に未来をください………。

未来（後書き）

うん。微妙……。

そして意外や意外、ユニークアクセス総合118人います！！
どうしてでしょう。

絶対読んでる人なんかいないだろうと思っていたのに驚くばかりです。

でも、人に読んでもらえる、もしくは関心を持ってもらえるということとはとても嬉しいことですな。

ありがとうございます。

会いに行くよ

皆があたしの事を誉め讃える。

あたしは嬉しくて、それに答える。

そしてあたしはさらに褒め称えられていく。

それが当然になって作った自分もすぐもとの自分と馴染んだ。

何も感じないから、あなたがあたしの心の奥を触ったから、この空を飛べたんだ……。

あなたに出会って愛に触れて戸惑うあたしがそこにいて、雨に濡れて命を吹き返した植物のように再復活を遂げて、今までのあたしじやいられなくなった。

愛を知ることであたしは生まれ変わった。

悔いることのない秘密の愛。

好きだと言って？

でもそれ以上今は言わないで。

あの場所（褒め称えてもらえたあたしの最高のステージ）に帰れなくなってしまうから。

ねえ。

この宇宙にあるのかな？

暖かい場所、夢みたいに夢見る場所。

あたしとあなたと幸せに暮らせるようなそんな場所。

心の闇、照らしだす波動を見つけて、もうすぐあたしは飛び出つの。あなたのもとへ遙か地上へ雪のようにふる雨が、この胸を満たしていく。

例えあたしが泡になり消えてもあなたのもとへ飛んでいくから。

どんなに遠くても遙か地上へ飛んでいくよ。

あなたに会いに行く。

例えそれがどんなに険しい道でも、簡単なんかじゃなくても。

あたしは今ですと一人でしたんだ。

一人が嫌いじゃなかった。

でも行くよ。

今すぐ会いに行くから。

あなたといたいから。

今、この時間もあなたといたいから……………。

どんな時間もどんな距離も越えて。

あなたのもとへ……………。

嫌い

窓の外の景色は移り変わって、季節や時間までが私を置き去りにしていく。

誰よりも近くにいて、どんなものよりもそばにいて、不安ばかりがつもっていつてあの時気づけなかった。

どうして気づけなかったんだろうね。

あなたの姿がどんどん私から遠ざかっていくことに。

あなたの姿が見えなくなる前に「行かないで」その一言がいえなかった。

何も言えなかった。

「あなたが幸せならそれでいい」なんて、絶対にいえない。

あなたの幸せなんて願えない。

まだ離れたくない。

行かないで……好きだから。

たった一言「まって」さえ言えなかった。

素直じゃなくて、捻じ曲がったそんなところがどうしようもないくらい私も私自身が嫌い。

どうしてこんなにも醜くなってしまったの？

どうしてこんなにも素直じゃないの？

誕生日にもらった指輪。

思い出すたび辛い記憶の一つ。

取っておいたって辛いだけなのに、今更分かったことは思う以上に私が必要としていたということ。

今更分かったって、もう戻ってこないのに。

あなたはいないのに。

二人で築いた時間さえ壊すように自分の中から出てきた言葉は味気ない「さよなら」だった。

本当のことは何も言えなくて、何も考えられなくなって、本当はいるんなことを言いたかった。

納得できなかった。

なのに口を勝手について出てきたのは「さよなら」しかなかった。

何も言えなかった。

余裕がなかった。

あなたが私と別れたことで、後ですごく後悔する。

そんな日が来ることを願っている私がいる。

意地悪で醜いそんな感情を抑えられずにいる。

そんな汚らしくて曲がった心が私はどうしようもないくらい嫌いなのに。

昨日よりももっと自分を嫌いになっていく……………。

やっぱり私は……………「あなたが幸せならそれでいい」なんて絶対に言えないよ。

捻じ曲がったこんなところが私だって好きなわけじゃないのにそんな感情ばかりが増えていくんだよ。

本当は私だって嫌いなのに、あなたが後にすごく後悔する、そんなことを本当はどこかで願っている。

そんな感情ばかりが増えていく。

意地悪で醜いこんな感情をもっているそんなところも、それをむき出しにしている今も。

自分が自分でだいつきらい……………！

人生

人生には悩みがつき物で、それでも自分の問題だから人には言えなくて。

人には言えないけど自分を理解してくれる誰かに言いたくて。

いいたいけどいえないから書くことに決めたんだ。

自分に当てて書く手紙ならきつと素直に打ち明けられるだろうと思っただ。

だけど、今の悩んでる自分に手紙を書いたって答えなんか出るわけないから未来の自分に書くことにした。

自分に悩み、それは未来には解決しているだろうか。

悩みを打ち明けて、今すっきりすることが出来るだろうか。

そんなことはわかんない。

でも、理解者は自分で、きつと笑ったりはしないってことだけは言えるだろう。

その手紙はタイムカプセルのようにめぐりめぐってきつと自分が少し年をとって大人になって今よりかは答えも出てすっきりしてたらいいと思う。

だから最後に添えるんだ。

この手紙を読んでいるあなたが、幸せなことを願います。

自分でも、今の自分じゃない、未来という他人に向けて、この手紙は旅立っていく。

あるときふと机の奥底にしまわれていたグシャグシャの手紙を見つけた。

内容はもうあまり覚えていなかったけど、これだけは覚えていた。

“この手紙を読んでいるあなたが幸せなことを願います。”

ぐしゃぐしゃになってしまった便箋を開いて、手紙を読んだ。

懐かしくて、ガラスのような自分の心に触れて、届くはずもないの

に手紙を書いた。

何度だって立ち上がってきたこと。

それが出来たこと、支えてくれた仲間や人々。

自分が今、一人ではないということをとくさん書き連ねて、最後に

“ありがとう、今の自分は幸せです。”と書いた。

立ち上がって、何度も転んで、転んだら傷つくことを恐れていた。

でも、立ち上がって周りを見渡してみても、きつと気づくはず。

自分は今まで一人じゃなかったこと。

仲間がいたこと。

転んでいない人はいないこと。

どんなときにもきつと立ち上がって行けると思う。

そうやって今の自分があること。

再びめぐりめぐって手紙が自分の下へ帰ってきたときにまた笑って

いられるようにと。

願いをこめた。

そうやってきつと人は過去と未来を現在として共有してるのかもし

れないね。

人生（後書き）

えー、はい。

あの、ですね、投稿途中の小説が増えつつあるのでこれはここで終わりにしようと思います。

私の脳内（妄想）世界に付き合っていたいただいた読者の皆様、ありがとうございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3956h/>

歌から生まれるモノ

2011年10月5日13時57分発行